

代替大会実施の趣旨説明とお願い〔補足〕

岡山県高等学校体育連盟

会長 神田 亮 一

1 趣旨説明

- 今回実施する大会は、県総体の代替と3年生の成果発表の機会、締めくくりの機会を特別に設ける措置であり、高体連が主催するものであります。
- このことについては、文科省や全国高体連からの要請もあり、報道等でも盛んに取り上げられているところです。また、かねてから専門部の皆様の強い要望を伺ってきており、何とか開催できないかと模索を続けてまいりました。現在は、緊急事態宣言が全国で解除され、本県においても、しばらくの間新たな感染者が出ておらず、落ち着いているように見えます。プロスポーツも再開の動きが出てきました。
- しかしながら、情勢は変わりつつありますが、空気（世間の目）として、大会（スポーツイベント）実施を容認する、積極的に応援する空気になっているとは思えませんし、実施の賛否は大きく分かれるところだと思います。私自身は、大会実施に不安要素の方が圧倒的に強いというのが正直なところです。
- こうした中であっても、部活動の再開や対外試合中止の解除がなされた場合には、高校野球の動きも相まって、大会実施の機運が一層高まることも予想され、仮に実施する場合は、7月から8月の時期でしか行えないことを斟酌し、県教育委員会と協議を重ねてまいりました。その結果、感染症予防対策に万全を期すという強い条件下で、一定期間内の実施が容認されたところであります。
- そうしたことから、私自身も大会実施を進めたいという強い思いがありながら、必ずしも積極的に推し進め切れない、非常にデリケートな案件であることを改めて確認したいと考えます。したがって、指導する側の思いだけで走るのではなく、生徒や保護者の気持ちを最優先に考えた上で、様々な状況を想定し、十分な議論を尽くし、慎重な判断をお願いいたします。

2 お願い（要項とガイドライン策定にあたって）

- 実施規模に制約を設けることは、屋内、屋外に関係なく、感染症対策の重要な視点です。その結果、通常行っている大会に比して、配慮すべき点が数多く出てくることはやむを得ず、特別な形式で行うことで競技の持つ醍醐味や試合の雰囲気などが激減することも考えられます。また、滞在時間も考慮しなければなりません。
- 参加にあたっては、各学校の生徒及び保護者の意向を踏まえてください。不安な気持ちを抱えている生徒や既に気持ちを切り換えている生徒に参加を強要する、促す働きかけは好ましくありません。したがって、基本的には「自由参加」になろうかと思っています。

- 参加人数の制限も必要です。1校あたりの人数は、エントリー数やベンチ入り選手のみとするなど、競技特性に応じて、感染症対策を最大限考慮した設定をお願いします。

したがって、応援のみで会場に来る生徒は想定に入っていません。

併せて、観覧に関しては、無観客とします。プロスポーツも無観客で再開するとしており、現在のスタンダードだと捉えています。そして、運営側は生徒と試合に集中すべき状況にあらうかと思えます。

- ガイドライン（感染症予防対策）のサンプルとしては、添付資料5「スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」が主となるでしょう。さらに、日本スポーツ協会作成の別添「スポーツイベント開催・実施時の感染防止策チェックリスト」を参照願います。意向調査に付けているチェックリストは、最低限のエッセンスだと捉えてください。

社会体育施設を利用する場合は、各施設ごとの感染防止策を厳守することが求められます。施設側と確認の上、専門部ごとのガイドラインに盛り込んでください。

なお、中央競技団体等が既に作成しているガイドラインがある場合、特段別のものを作成していただくなくても結構ですが、上述のとおり、各施設ごとの対応は含めてください。

- 実施時期について

6月22日からの対外試合等中止の解除を見越していますが、部活動の再開後、学校生活を徐々に戻していくことが優先されます。そうしたとき、生徒のコンディションを最優先に考えた結果、「代替となる大会の実施」に関しては、7月4日からとしたものです。

8月16日までとした日程は、夏季休業を一つの区切りとしたものです。また、全国高校総体の開催要綱では、「8月1日から12日まで、16日から20日までの間を原則とする」と定めており、県大会ではありますが、代替となる大会の目安としております。したがって、8月17日以降の実施は認められません。

- 要項とガイドラインについては、提出され次第、専門部とのヒアリングを実施し、内容の確認を行います。問題がなければ、代替となる大会の実施を認める、という流れになります。